

総司花伝（そうじかでん）

松下 幹生

日野の地で 理心の蕾 開花して
明るい笑顔の 美剣士が
ひとたび刃を 手にすれば
構えも凛々しい 百合の花
蘭の歳三 牡丹の勇
清河をくださる 呉越同舟 花筏（はないかだ）

京に入り 壬生（みぶ）に集いし 烏合の志
思想揃わぬ 二輪草
鉄扇組等（ら）の 狼藉に
鴨が飛び立つ 涙雨
総司も羽織る だんだら染めで
かたくり（容保）の下（もと）
尊皇攘夷の 枝はらう

池田屋の 萩の者等（ら）の 会合に
一網打尽と 攻め入って
菊一文字 刀鳴りさせ
次の座敷に 入りし時
椿の花を 喉から散らせ
その場に墮ちる
美剣士総司 なんとした

儂き華は 散りゆく定め